

**子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業**  
**(地域の自然環境や教育資源を活用した事業) (青少年地域参画促進事業)**

**新庄小学校 ふるさと夢プロジェクト**

- ・野菜育成プロジェクト(1・2年) ・ダイズ育成加工プロジェクト(3年)
- ・自然探検プロジェクト(4年) ・赤米生き生きプロジェクト(5年)
- ・新庄はやし田継承プロジェクト(全学年)
- ・地域へ感謝と学習を発表する「ありがとうの会」プロジェクト(全学年)

北広島町立新庄小学校

**【事業のポイント】**

- ①ワークショップの実施
- ②情報発信(通信発行)
- ③具体的プロジェクト
- <野菜育成プロジェクト(1・2年)>
- <ダイズ栽培加工プロジェクト(3年)>
- <自然探検プロジェクト(4年)>
- <赤米生き生きプロジェクト(5年)>
- <新庄はやし田継承プロジェクト(全学年)>
- <地域へ感謝と学習を発表する「ありがとうの会」プロジェクト(全学年)>



**1. 企画**

**(1) 事業実施の背景**

新庄小学校は、自然豊かな中山間地の小規模校である。新庄地域には、古くから稲作に関わる民俗芸能のはやし田(花田植)が伝承されており、本校でも新庄郷土芸術保存会の指導を受け、学校の伝統として受け継いでいる。このため、地域との結びつきは強く、地域は協力的である。

そのような中、新庄小学校は、数年前からいろいろな地域の団体から、野菜作りやダイズ栽培、自然体験、赤米栽培の指導をいただき、「ふるさと夢プロジェクト」を展開している。児童は、地域の方から指導を受け、体験することで生活の知恵や思い、願いなどに触れる中で、地域を知り、地域を愛し、地域に貢献する態度が育ってきている。

そこで、昨年度に引き続き本事業を活用し、よりダイナミックに本校の「ふるさと夢プロジェクト」を展開し、ふるさとの自然を愛し、児童のふるさと新庄への思いをより強固にし、たくましく生きる力児童を育て、児童の自主性、自立性、自己肯定感の高揚を図る。

また、地域の自然環境や教育資源の幅広い活用方法を協議し実践する中で、各種団体が相互に繋がりながら学校と連携を深め、協力して活動するネットワークの基盤をより確かなものにした。

**(2) わらい**

○本校が継続実施している「ふるさと夢プロジェクト」を、よりダイナミックに展開し、ふるさとの自然を愛し、児童のふるさと新庄への思いをより強固にし、たくましく生きる児童を育てる。

○地域の自然環境や教育資源の幅広い活用の仕方など協議して、地域と地域のいろいろな団体と学校がより連携を深め、協力して活動するネットワークの基盤を作る。

**2. 実施概要**

**(1) 地域プラットフォームの構成**

<プラットフォーム構成メンバー> (敬称略)

- 北広島町教育委員会教育長 池田 庄策
- ◎新庄小学校PTA会長 小笠原 奏子
- ◎新庄小学校校長 寄実 富美枝
- ◎岩戸黒瀧代表 小堀 敏臣
- 新庄地区連合会会長 森田 隆司
- 新庄郷土芸術保存会代表 大下 俊幸
- 民生児童委員代表 梶川 史子
- さくら農場代表 田辺 文秋
- 足谷サロン代表 宮庄 陽子
- 町づくり会社CC50代表 山本 正克
- 可愛川漁協代表 竹内 求
- 小倉の里市民農園 佐伯 勝也
- おやじの会 上原 顕照



○野菜作り講師 宮庄 秀雄

◎は「プラットフォーム立ち上げメンバー」

(2) 具体的な取組の概要		
① ワークショップの実施		
② 情報発信（通信発行） 児童の体験活動を新庄小学校のホームページ、学校便りに掲載し、新庄地域や全国に発信する。また、中国新聞社や地域ローカル放送「きたひろネット」で地域に発信する。		
③ 具体的プロジェクト <野菜育成プロジェクト（1・2年）> <ダイズ栽培加工プロジェクト（3年）> <自然探検プロジェクト（4年）> <赤米生き生きプロジェクト（5年）> <新庄はやし田継承プロジェクト（全学年）> <地域へ感謝と学習を発表する「ありがとうの会」プロジェクト（全学年）>		
(3) 実績スケジュール		
月	日	内 容
7	6	足谷サロン交流会（6年）
	11	第1回プラットフォーム（ワークショップ）会議
		※夏野菜の観察及び収穫（1・2年）
		※学級園の草取り
8	20	可愛川の自然に親しむ会（全学年）、新庄の川学習（4年）
		※赤米観察（5年）
		※夏野菜の収穫
9	1	パンジーの種まき（4年）
	5	大豆畑の草取り（3年）
	8	夏野菜の収穫と夏野菜パーティー（1・2年）
	26	赤米の稲刈り
10	19	サツマイモの収穫（1・2年）
		※パンジーの観察（4年）
11	10	赤米のもみすり（5年）
	14	サツマイモパーティー（1・2年）
	17	大豆の収穫（3年）
	21	パンジーの植替え（4年）
	21	赤米の商品開発（5年）
	25	大聖院赤米の奉納（5年）
	30	ダイズを使った豆腐づくり（3年）
	※パンジーの観察（4年）	
12	1	ありがとうの会（全学年）
	8	わらを使ったしめ縄づくり（3年以上）
1		※赤米の学習のまとめ（5年）
		※はやし田の調査研究のまとめ（6年）
2	2	第2回プラットフォーム（ワークショップ）会議
	28	はやし田引き継ぎ式
3		※今年度のまとめ

### 3. 成果と課題

#### (1) 成果

○学校が地域に働きかけ学校の取組を語ることで、地域と学校の結びつきが強まり、地域の教育力を学校教育に生かすことができた。各活動がよりダイナミックになった。また、新たな地域の教育財を見つけることができた。

○地域へ活動や内容を周知したり、「ありがとうの会」で学習した内容を発表したりすることで、地域の各団体間の交流や連携が強まった。また、学校便りやホームページへ掲載したりして保護者、地域にも学校の取組んでいる教育活動を理解していただいた。

○児童が、地域の方からたくさんのことを学び、いっしょに活動することで地域の方々のがんばりやすばらしさを直に知ることができた。さらに、児童は新庄地域への愛着心が高まり、新庄地域が好きになってきている。

○各種の体験活動を進めることで、児童自らが、自分達のできる取組を考え出しやりきろうとする実践力が高まってきた。

#### (2) 課題

- 「ありがとうの会」では、地域や各団体への発信はできたが、保護者への働きかけが不十分であった。
- 学校が取組んでいるこの実践が、保護者に十分伝わっていない。PRすることや、保護者参加などの働きかけを来年度は行いたい。
- カリキュラム開発や事業実施に関わる計画、授業時数等検討すべきである。

### 4. 地域プラットフォームの展望（今後の方向性・取組等）

「新庄小学校 ふるさと夢プロジェクト」をよりダイナミックに展開し、ふるさとの自然を愛し、児童のふるさと新庄への思いをより強固にし、たくましく生きる児童の育成を進める。そのためには、この事業を継続し、児童の自主性、自立性を身につけさせ、自己肯定感を高めさせたいと考えている。

#### ○各学年のプロジェクトの目的の検討

・学年ごとのプロジェクトや学校全体としてのプロジェクトを設定し取組んでいるが、新庄地域には、活躍されている人や生活の知恵をお持ちの「人材」、また、文化財や史跡などの「もの」、歴史・文化などの「こと」があり、それを活用した体験ができる。地域のそれらの「財」を活かした取組にするために、各プロジェクトの目的の検討は必要と考える。

#### ○事業の取組に対する条件整備や環境整備

・各プロジェクトが、地域の方のご支援やご協力に頼った活動になってきている。地域が主導する取組にといった趣旨はあるが、学校教育の中に位置づけるためには、それなりの環境整備や経費等の支援が必要となる。事業存続のための条件整備や環境整備の支援が必要となる。

#### ○児童の活動を広げるPRの推進

・学校と関わっていき、児童が熱心に新庄地域の学習をしたり深く調べたりすることは、大事なことである。「ありがとうの会」での学習発表でも分かるように、地域はまだまだ学校の取組みを知らないことが多く、もっと、PRして児童の頑張りを知らせ、認めることで、地域は活性化化すると思う意見もあった。

#### ○児童の「生きる力」を育てるための課題

・地域の方は、児童の活動に理解していただき、丁寧に指導や支援をしていただいた。児童は、少し、受身になっているところも感じている。児童の将来のことを考えると、困難な課題や失敗に直面することも大切であると思う。困難な課題や失敗に直面した時、どのようにすると解決できるのか、何が原因だったのか、今後どうすれば良いのか等、児童自ら考え、協議しよりよい解決策を見つけるたくましさが必要になってくると考える。

#### ○児童の主体的活動にするための取組

・「新庄小学校 ふるさと夢プロジェクト」の事業を行なう中で、児童が主体的に体験学習を行い自ら課題を見つけ調べる学習（課題発見・解決学習）カリキュラムを作っていきたい。また、他の教科領域と関連を図り、学習の充実を図る必要がある。

### 5. 団体プロフィール

郵便番号 731-2103

住所 広島県山県郡北広島町新庄3497番地

電話番号 (0826)82-2025 FAX (0826)82-7065

<http://www.khiro.jp/shinjo-es>

E-mail/[shinjo-e@town-kitahiroshima.ed.jp](mailto:shinjo-e@town-kitahiroshima.ed.jp)

北広島町立新庄小学校



**子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業  
(地域の自然環境や教育資源を活用した事業)  
(青少年の地域参画促進事業)**

北広島町立大朝中学校

【事業のポイント】

- テングシデの学習を通じて、里山生態系の成り立ちや、人と自然との関わりについて理解を深める。
- 地域プラットフォームの形成を通じた生涯学習を行い、地域との絆を深める。
- 地域と子どもとが一体となり、自然保護や里山管理活動を推進する。
- 森の未来像を考え、発信する。



＜保存会の方々との整備活動＞

**1. 企画**

**(1) 事業実施の背景**

本校の学校区内の田原地区には、国の特別天然記念物「テングシデ（樹木）」が群生する群落があり、自然の中で突然変異として生まれたテングシデは、枝・幹がくねくねと曲がった風貌から地域の人たちが里山を利用していく中で、様々な伝説や昔話が生まれ語り継がれてきました。

里山の利用が少なくなった今、テングシデも衰退の一途を辿っています。一方、指定地外の林床には多くのテングシデが自生するものの、スギやヒノキなどに覆われ生育が妨げられていることから、町は平成28年度から周辺樹林の公有化を図り、群落を拡大・活性化する事業に着手しています。

本校では、町教育委員会が進める「ふるさと夢プロジェクト」の一貫で、文部科学省指定事業の「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業」を受け、本校1年生が「総合的な学習の時間」を活用してテングシデの保護保全に取り組むとともにテングシデPR活動を進めることとした。

**(2) ねらい**

- テングシデの生育する田原地区を中心に、守る会、NPO、役場大朝支所、教育委員会と連携を図り、それまで各主体が独自に実施していた保護活動等の取組について協力して行う。
- 「総合的な学習の時間」において地域の生態系や、人と自然の関わりについて学習し、自然を活かした地域づくりについて学んだり、学習したことを発信したりできる力を身につける。
- テングシデPRポスターの作成を行う。

## 2. 実施概要

### (1) 地域プラットフォームの構成

所属	役職	氏名
田原老人クラブ会	会長	植本 幹雄
田原自治会	会長	竹内 求
テングシデを守る会	事務局 長	平田 義孝
総合型地域クラブ「大朝人くらぶ」	代 表	長田 克司
北広島町大朝支所	支 所 長	清水 繁昭
	次 長	植野 一也
北広島町教育委員会	ふるさと夢プロジェクト係	沖中 満春
		落合かるな
広島県新庄学園広島新庄中学校	教 頭	平野 正
大朝中学校	P T A 会 長	平田 昭典
	校 長	鎌田 義昭

### (2) 具体的な取組の概要

#### ①プラットフォーム会議の実施

目 的：地域で行っているテングシデの保存活動について共有するとともに、生徒の体験活動の実態を把握するとともに、生徒の体験活動を支援するための課題や地域の自然体験資源について考える。

#### ②情報発信 テングシデPRポスター、学級通信、学校だより、ホームページ等 紀要作成

目 的：プラットフォーム事業の活動を紹介すると共に、生徒が身につけた力を確認し情報を発信する。

#### ③テングシデ群落についての学習（森の将来像等）

目 的：テングシデと群落について科学的な視点と地域との関わりについて学ぶとともに地域の方々と保存活動を進め地域との結びつきを深めていく。

### (3) 実績スケジュール

月 日	内 容
6/29/2018	作る① テングシデをアピールするポスター制作のために「テングシデ群落」でテングシデをスケッチする。 ○地域の版画家、島田愛子さんを講師に招きスケッチ指導をもらう。
6月 下旬	知る③ 講演「テングシデが生育している周辺の森や植物（ササユリ等）について知り、現在の課題を整理する」（校内）
7/10/2018	知る④ 「地域のテングシデに対する取り組みとその思いを知る。」 ○アピールのための企画を作成しポスターセッションを行う。 ○テングシデを守る会の平田さんの講演から学ぶ。
7/16/2018	体験① 「地域との協働作業でテングシデ環境整備1」（現地） ○ボランティア生徒で参加する。 ○第1回現地作業（現地）
9/26/2018	体験② 「地域との協働作業でテングシデ環境整備2」（現地） ○地域老人会とテングシデ環境整備作業・意見交流を行う。
9/27/2018	体験③ 芸北中一年生による八幡湿原トレッキングガイドに参加しガイドの仕方を学ぶ。（現地）
9月 中旬	作る② 町内各所においてテングシデのスケッチ展覧会を開く準備を行う。 ○町内各所へ掲示するポスターの制作
11/18/2018	発信①地域公開「わさっこフェスタ～好きです。大朝～」にて取り組みの発表 ○プレゼンテーションソフトにまとめる。 ○地域公開研発表
12月 7日	作る③ テングシデをアピールするポスター制作のために冬のテングシデをスケッチする。 ○島田愛子さんを講師に招きスケッチ指導をもらう。
1月～3月	発信②展覧会について考える。 ②ポスター掲示の場所等の検討を行い、掲示を依頼する。 ②きたひろネットで作成したポスターPRする。
3月 初旬	まとめ ○本年度の成果と課題を整理する。

### 3. 成果と課題

#### (1) 成果

○昨年度に引き続き、地域の和楽会(老人会)及びテングシデ保存会と連携を密にしながらい進めた。それにより、地域との保存・整備活動を2度行うことができた。(昨年度1回)。また打合せ会やプラットフォーム会議を持ち、計画・実施に向けて共通理解が図れた。

○地域の芸術家の指導を受け、2度のテングシデスケッチを行うことができた。それをベースにしたテングシデPRポスターを製作することができた。

○1年目の活動を膨らませ、地域の宝であるテングシデを年間を通じて学習、体験活動できた。

○テングシデの群落の保存活動を地域の保存会の方々と行い交流を深めることができた。

○事業を通じてふるさと大朝の魅力を体感し、誇りを持つことができた。 <テングシデPRポスター>



#### (2) 課題

●プラットフォームのメンバーの方々もそれぞれ仕事があり、会議を開くための調整が難しいため、全員がそろっての会議ができないことがあった。

●地域の保存活動と合わせて体験活動をする日程調整が難しかった。

●事業の発展と活動報告の発信を計画していくために今年度の事業のまとめをしっかりと行う

### 4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業」をさらにパワーアップするために  
(1) 課題設定 — 平成28・29年度に行った活動をさらに発展させる。特に、テングシデ群落の魅力を町内外に広める活動(ポスター掲示・テングシデ写真展・テングシデスケッチ作品展等)を展開する。また、自分たちにできるテングシデ保護・保全について学習し地域の方との活動を計画する。

(2) 情報収集 — 地域の方や守る会の方から話を聞く。

(3) 解決策を出す — 自分たちに何が出来るかを考え計画を立てる。

(4) 解決策を実行 — 地域の方と一緒に活動を展開していく。

(5) 今後の方向性 — 実績を残し、情報発信を行う。

### 5. 団体プロフィール

団体名: 北広島町立大朝中学校

住所: 広島県山県郡北広島町大朝4683-1

TEL: 0826-82-2037

FAX: 0826-82-2103

URL: <http://www/khiro.jp/oasa-ij>

Email: oasa-j@stn.town.kitahiroshima.ed.jp



<老人会との整備作業後の集合写真>

## 子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (① 地域の自然環境や教育資源を活用した事業)

豊平地域 子供のふるさと自然体験支援事業  
～「そばの里」豊平を活用した『ふるさと学習』を中心にして～

豊平学園（北広島町立豊平小・中学校）

### 【事業のポイント】

○地域の活性化のために取り組まれている「日本一のそばの里」づくりと連動した、ふるさと学習を展開する。  
○そば作りを中心とした「ふるさと学習」を進めることで、児童生徒の地域への愛着心を育てたり、地域の将来に貢献する人材を育てる。  
○地域の関係諸団体の協力を得て、多様な体験・交流学習をすることで、地域の元気・活性化に貢献する。  
○併設型小中一貫校の特徴を生かし、小中学生が、一緒にそば作りに関わり、系統的な学習をする。



## 1. 企画

### (1) 事業実施の背景

中国山地の山間地に位置する豊平地域は、少子高齢化・過疎化が進む中、町おこしの取組として、昭和62年「日本一のそばの里」をめざし、本格的なそば作りの取組を始めた。翌年には「手打ちそば保存会」が発足し、「第1回そば祭り」が開催されるなど、具体的な取組が地域をあげて進められてきた。今まで一定の成果を上げてきているが、近年、生産量の頭打ちや後継者不足等の問題が起きてきている。学校では、小学校4年生が中心となって、「そば作り」に係る学習やそばの栽培・そば打ち等の体験を行ってきたが、昨年度より、「ふるさと学習」として、地域の伝統・文化である「そば作り」を小学校の全児童・中学生が関わり、そば作りについて学習したり体験活動を行ったりしている。また、中学校では、地域の支援により豊平中そば打ちクラブを立ち上げ、そば打ちの技を継承したり地域のイベント等で出店したりしている。豊平小中学校では、小学校3年生から中学校3年生まで、児童生徒の発達段階に応じた、地域の自然や伝統・文化、産業や農業等についての学習に取り組んでいる。これらの取組が、そば作りを核にした地域の活性化・将来のふるさとに貢献する人材育成につながることを期待されている。

### (2) わらい

小学校1年生から中学校3年生まで、地域の方を巻き込んだ系統的な学習・体験活動を通して、地域の主産業の一つであるそば作り・そば打ちについて学ぶことで、ふるさとへの愛着心を育て地域の将来に貢献する人材を育てる。また、米作り学習について、5年生が中心となって体験学習を別途に行う。地域と一体となった取組・地域に学んだことを発表する取組を通して、地域の方との交流を深めることで、ふるさとの元気に貢献する。

## 2. 実施概要

### (1) 地域プラットフォームの構成

#### 【構成員】

氏名	所属
金田道紀	豊平学園 学校運営協議会 会長 (兼 青少年育成推進協議会豊平支部 支部長)
堂原千春	北広島町役場豊平支所 支所長
齋藤栄一	豊平小中学校PTA 会長
岡田二三龍	豊平小中学校PTA 副会長 (母親代表)
原三三	豊平自治振興会 会長
小里博子	女性会豊平エリア 会長
神川潔	民生委員協議会豊平支部 支部長
竹丸学	一般財団法人どんぐり財団 理事長
宮崎英二	総合型スポーツクラブ・どんぐりクラブ屋台村 代表
入澤良枝	社会教育委員
佐々木昭典	豊平小学校 校長
久川伸介	豊平中学校 校長
池田庄策	北広島町教育委員会 教育長

### (2) 具体的な取組の概要

#### ① プラットフォーム会議の実施

地域プラットフォーム事業に基づく諸活動について共通理解を図り、支援の輪を広げる。

#### ② 「そば作り」を中心とする「ふるさと学習」の展開

小中の9カ年を貫き、地域と一体となった取組を通して、地域に親しみ、地域への愛着を育てる。

◇ そば作り体験

◇ そば作りを通じた町の活性化についての学習

◇ 手打ちそばの体験学習・豊平小中そば打ちクラブ

#### ③ 地域公開・文化祭の実施

小中一貫校（豊平学園）として、「ふるさと学習」の成果を地域に公開する。

学習内容の発表や、手打ちそば、餅つき等の実演・試食等を通して、広く地域の理解を得る。

地域の活性化について、参加者とともに考える場とする。

#### ④ 情報発信（通信・地域放送等の実施）

積極的な情報発信により、活動の目的や内容を地域全体で共有することで、地域で子どもを育てようとする意識の醸成を図る。

◇ 学園便り、学校便り、地域放送



(3) 実績スケジュール	
月 日	内 容
6/28/2018	第1回プラットフォーム会議
6・7月	そば畑準備<トラクターによる耕運4回> 作業：都志見原営農組合
8/3/2018	そばの種まき
9/11/2018	第2回プラットフォーム会議
9/22/2018	そば作りについて学ぶ(中学生) 講師：豊平手打ちそば保存会等(2名)
10/20/2018	地域公開・文化祭の案内(ポスター)を地域の全戸へ配布
10/20/2018	そばの刈取り<コンバインによる刈取り> 作業：都志見原営農組合
11/12/2018	そば畑の整備<トラクターによる耕運1回> 作業：都志見原営農組合
10/28/2018	地域公開・文化祭で発表・実演 そば打ち指導 講師：豊平手打ちそば保存会(6名)
	地域公開・文化祭で発表・実演 餅つき指導 講師：戸谷営農組合(7名)
1/30/2018	そば打ち体験・感謝の会(小4)
12/14/2018	第3回プラットフォーム会議

### 3. 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 児童生徒への学習効果(ふるさと学習の効果)

ふるさと学習で取り組むそば作り体験学習・地域の方との交流を通して、課題発見・解決力や社会性を高めることができたとともに、ふるさとへの理解・愛着心が深まり、将来のふるさとを担っていこうとする心情と態度を育むことができた。児童生徒は、アンケートで、「ふるさとが好き(小-89.2%, 中-89.8%)」、「将来ふるさとに住みたい(小-72.3%, 中-69.4%)」と回答している。

##### ② 地域と共に創る学校

地域プラットフォームを形成することで、地域・保護者の学校教育への理解が深まり、諸活動実施にあたっての支援の輪を広げることができた。多様な体験学習をするにあたって、外部講師との連携を円滑にすることができた。また、ふるさと学習で学んだことを発表したり、そば打ち・餅つきを行い地域の方に感謝の気持ちをこめて振舞いをした地域公開・文化祭において、過去最高の地域・保護者の参加者があった。地域の方のアンケートでは、「ふるさと学習に取り組んでいる様子がよく分かった」「児童生徒のそば打ち等の実演・試食よかった」の問いに対して、肯定的回答がいずれも、100%であった。

##### ③ 地域の活性化

豊平学園の取組(地域へのイベント参加、文化祭での発表・そば打ち等)を通して、地域の方がふるさとのすばらしさを再認識したり、児童・生徒と地域、地域の方同士の交流が図られたりするなど、地域の元気・活性化に貢献することができた。「ステージ発表、どの学年も豊平の素晴らしさを表現してくれていたのが、改めて地域の良さが確信できました。そば、お餅、おむすび、こんにゃく、スイートポテトすべておいしかったです。子どもたちが笑顔ですすめてくれたのでおいしさも倍増しました。合唱もすくない人数で迫力ある歌声に感動しました。今日一日とても充実した心温まる時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。」「授業「道徳」からステージ発表まで、ふるさとをテーマに子どもたちが学習に取り組んでいる成果を一貫して見せていただきました。学校に足並みを揃えて、家庭でも地域の行事や地域の自然を大切にすることを育てたいと思いました。」という声もいただいた。

## (2) 課題

そば作りは、天候に左右される。そばの種まきは、土が乾燥した状態で実施する必要があるが、梅雨明けから夏休み開始にかけての時期にあたるため、日程調整が難しい。本年度は、天候不良のために児童・生徒が実施することができず、職員が行うことになったが、地域の方が積極的に参加してくださり、その後の栽培活動は順調で、成長の観察等を行うことができた。ゆとりのある計画を立案する必要がある。また、学校の取組に対して、地域プラットフォーム構成員、地域・保護者には、精力的に協力をさせていただいたが、取組を広げたり深化させたりするためには、提言をいただく等、より積極的な関わりをしていただく学校の取組にしていかなければならない。

## 4. 地域プラットフォームの展望（今後の方向性・取組等）

地域と協働して、この事業の継続・充実に図り、年間の活動内容、学習のサイクルを確立して、地域コミュニティの核となる土台づくりをさらに進める。そば作り体験に加えて、多様なふるさと学習を展開し、自然体験・交流体験ができるようにしていく。

○ 「豊平地域プラットフォーム」をより一層充実させて、地元北広島町や企業・豊平の諸団体等とコラボレーションして、そばのみならず、新たな創作体験活動の試行に取り組み、ふるさとの地域活性化に寄与する。

## 5. 団体プロフィール

豊平学園(北広島町立豊平小・中学校)

〒731-1712

広島県山県郡北広島町都志見10914

Tel 0826-85-0850

Fax 0826-85-0852

URL <http://www.khiro.jp/toyohira-syou/>

Email [toyohira-e@town-kitahiroshima.ed.jp](mailto:toyohira-e@town-kitahiroshima.ed.jp)

平成25年4月に豊平地区の3つの小学校の統合により豊平小学校を開校、校舎を豊平中学校横に新設し、併設型小中一貫校となった。また、平成26年度より、コミュニティ・スクールの指定を受け、地域と共に創る開かれた学校をめざして、特色ある「ふるさと学習」等の取組を行っている。

